

ご挨拶

学長 木 船 久 雄

「敬神愛人」を建学の精神とする本学は、高度成長時代の最中1964年に経済学部単科大学として開設され、本年、創立50周年を迎えます。50年前の単科大学が、今では6学部10学科、大学院2研究科4専攻、1留学生別科を擁する大学に変貌を遂げています。これは開学当初から構想された総合大学への道のりであるとともに、社会ニーズに的確に応えてきた先人の努力の結晶です。本学の発展にご尽力いただきました先輩諸氏、ご支援ご協力を頂きました関係の方々にあらためてお礼申しあげます。

2006年改正の教育基本法は大学の使命として、それまでの教育・研究に社会貢献を加えました。そのため大学が担う社会活動は大幅に広がっています。地域と共に歩む大学として、本学も様々な連携形態を通じて地域社会への貢献事業を展開しています。しかし大学にとって、教育・研究が今後も不変の2大使命であることは疑いありません。大学は教育という知の伝承を通じて人材を育成し、研究という知の創造を通じて真理の探究を進める場であり続ける。その成果をもって社会に貢献するというのが同法で語られる基本的な精神であると思うからです。

本学は大学の発展と軌を一にしながら、研究成果の発表の場として大学紀要を拡充して参りました。開学と同時に『名古屋学院大学論集』第1巻を発刊し（1964年）、第7巻からは「社会科学篇」と「人文・自然科学篇」とに分冊しました（1970年）。さらに『研究年報』を創刊し（1988年）、外国語学部設置期には「言語・文化篇」（1990年）を増補しました。これにスポーツ健康、リハビリテーションの2つの学部開設後に「医学・健康科学・スポーツ科学篇」を加えました（2012年）。現在ではこうした5種類の紀要を刊行しています。紀要充実の歴史は本学発展の歴史であり、そこに集う研究者たちの活動を保護し鼓舞してきた証左です。この事実を誇りに思い、今後もその努力を惜しみません。

しかし、社会における大学の位置づけの変化とともに研究環境は厳しさを増しています。大学大衆化は学問への動機づけや学修方法の伝授、学生指導や教育手法の改良に多くの時間を割くことを求めます。「大学冬の時代」と言われて早20年余、18歳人口の減少は生き残りをかけた大学間競争に拍車をかけ、大学の教育力・研究力が真に問われる時代に突入しました。

創立50周年を迎えるにあたり、本学は「中長期計画」を策定しました。その総合ビジョンは「教育・研究・社会貢献の絶え間ない改革を実行し、とりわけ教育重視の大学として社会から強固な信頼を獲得し、中部地区で確固たるプレゼンスを発揮する大学になる」と謳います。重点は教育に置かれますが、50年後に第100巻の紀要発刊を祝うことができるよう研究活動も大いに奨励して参ります。